

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会 (第 25 期・第 1 回)

議事要旨

1. 日時 令和 3 年 9 月 24 日 (金) 10:30~11:50
2. 会場 遠隔会議 (主催会場: 防災科学技術研究所)
3. 出席者: 中田節也 (防災科研)・井口正人 (京大防災研)・石塚治 (産総研)・市原美恵 (東大地震研)・上田英樹 (防災科研)・篠原宏志 (産総研)・清水 洋 (九大大学院)・山岡耕春 (名大大学院)・中川光弘 (北大大学院)・西村太志 (東北大大学院)・森田裕一 (東大地震研)
4. 配布資料  
資料 1: 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会 (第 24 期・第 5 回) 議事録  
資料 2: IUGG 分科会 第 25 期 第 1 回 議事録  
資料 3: IAVCEI 小委員会 設置提案  
資料 4: IAVCEI 小委員会 名簿  
資料 5: 2021 年 5 月 18 日 火山学会 理事会 報告  
資料 6: IAVCEI の 最近 の 動 向  
資料 7: 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの実施状況 (概要)  
資料 8: 火山機動観測実証研究事業  
資料 9: 今後の会議予定
5. 議事概要
  - (1) IAVCEI 小委員会 役員 の 選 出  
出席した委員によって、中田委員が IAVCEI 小委員会の委員長に選出された。中田委員長から、上田委員が幹事に指名された。
  - (2) 小委員会 委員間でのメールアドレス共有の承認  
委員間の連絡やメール審議を行うため、委員間でメールアドレスを共有することが承認された。
  - (3) 議事要旨の委員長一任について  
委員会終了後に議事要旨案はメールにより各委員に照会されるが、その後の修正と確定は委員長に一任されることが承認された。
  - (4) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会の報告  
中田委員長より、地球惑星科学委員会 IUGG 分科会の最近の活動について報告があった。
  - (5) 火山学会 理事会 報告  
中田委員長より、最近の IAVCEI 小委員会の活動について 5 月の日本火山学会理事会で報告したことの報告があった。
  - (6) IAVCEI からの報告  
井口委員より、IAVCEI の最近の動向について報告があった。IAVCEI のコミッションが多いため 25 から 23 に減らされたが、それらを取りまとめるリエゾンコミュニティは機能しなかったために廃止され、総会時にコミッション・リーダーを集める会議に置き換える。また、

WOVO（世界火山観測所機構）については、見直しのため WOVO のメリットについてのアンケート調査が行われている。2020 年 2021 年に開催が予定されていた Cities on Volcanoes や IAVCEI Scientific Assembly がコロナ禍で延期されたが、この間、イタリア、アイスランド、セント・ビンセントなどで発生した火山噴火についてのウェビナーがそれぞれ開催された。

(7) 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの動向

清水委員と西村委員より、「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」について報告があった。今年度から後半の 5 年が始まり、7 年目の評価を控えている。火山研究人材育成コンソーシアムについては、新型コロナウイルス感染の影響のためストロンボリ火山で行う International School of Volcanology が昨年度は中止され、今年度も中止される予定である。また、シンガポールの南洋理工大学とのワークショップは、昨年度オンラインで開催され、今年度も開催に向けて日程調整中である。

(8) 火山機動観測実証研究事業

森田委員より、火山機動観測実証研究事業について報告があり、10 月 1 日に「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」関係者向けの説明会、10 月 22 日に日本火山学会員向けの説明会を開催する予定との説明があった。本事業には国際研究支援のための体制づくりが含まれる。

(9) その他の活動報告

a) 日本人の研究成果の国際的な可視性について

市原委員より、国際誌のレビューなどの過程で、日本人の研究があまり海外の研究者に引用されていないのが目立つとの報告があり、これに関して意見交換した。いくつか考えられる理由や対策として以下の意見が出された。

・日本人は日本人の研究を引用しない傾向があるので、引用するように働きかけるべき。・海外研究者と知り合うと引用されやすいので、積極的に共同研究を進めることが必要。・日本人が海外に行かなくなり日本人研究者の顔が見えなくなっているため、共同研究を増やすことや海外に行く機会を増やすことが大事。・論文の絶対数が少ないことが根本的な原因であり、特集号提案などで論文を増やす努力をすることが必要。・日本からもウェビナーなどで学術的発信をすることと、EPS などの外国人エディターを増やす努力をすることが必要。

b) その他の国際共同研究について

石塚委員より、IODP の航海が再開され、サントリーニ島周辺の掘削航海が予定され乗船者を募集しているとの報告があった。また、中川委員より、北海道大学では、日本、アラスカ、カムチャッカで 2 年に 1 回の持ち回りで開催している Japan-Kamchatka-Alaska Subduction Processes (JKASP) ワークショップを、新型コロナウイルス感染症のため一昨年から開催できていないとの報告があった。

(10) 今後の会議予定

中田委員長より、資料 9 に基づいて今後のスケジュールについて説明があった。新型コロナウイルス感染症のため延期されていた Cities on Volcanoes 11 と IAVCEI Scientific Assembly が、それぞれ、2022 年 6 月 12～17 日にギリシャ・イラクリオンと 2023 年 1 月 30 日～2 月 3 日にニュージーランド・ロトルアで現地開催される予定である。